

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第129号)

ママパパと子どもたちの 笑顔あふれる図書館を

図書館にはさまざまな年齢や目的の利用者がやって来ますが、なかでも小さな子どもたちとそのママパパにとっては、親子で楽しく過ごすことのできる人気のスポットですね。



[クルール表紙]



[連載第1回目]

さて、ここに岡山県内の未就学児ママへ情報発信していた『クルールおかやま』というフリーマガジンがあります。「ママライフを応援する」をコンセプトとし、その連載記事のひとつに岡山県内の図書館司書さんへのインタビューがありました。図書館について・子育て世代や子どもへの取り組み・ママたちへのエール・おすすめ絵本・イベント紹介という内容です。

平成23年12月号から連載は48回を数え、多くの図書館を訪問しました。制作で県内をくまなく訪問できたことは、私にとって貴重な体験です。それぞれ特長を打ち出す個性豊かな図書館と出会うことで「図書館は本を借り、静かに閲覧するための場所」というイメージも変わっていきました。本との出会いやレファレンスサービスのみならず、他の地元施設とのコラボや子育てママや親子など同世代での交流や異年齢交流など、さまざまな文化・情報と人が出会う

拠点として機能するのが図書館だと肌で感じ取れるようになったと思います。なにより、図書館は子どもにとってコミュニケーションや好奇心の種を蒔き育てていく場でありママにとっては子育てをサポートしてくれる場です。

そして縁の下の力持ちとして、当たり前そこに居てくれる司書さんたちの温かいまなざしや思いを感じることができました。

残念ながら、『クルールおかやま』は昨年12月号をもって休刊となりましたが、本誌読者アンケートでは「図書館が大好きです、参考になりました」「いつも行っている図書館の司書さんが登場して嬉しい」「紹介絵本を借りにいきます!」「読み聞かせの参考になりました」などの声をいただいております。また、県立図書館について「知ってた?岡山県立図書館のイイところ!」という特集記事を組んだときも大きな反響をいただきました。

『図書館』という場所は、ママたちにとって親しみを感じる一方、まだ気づいていない、知られざる魅力にあふれた場でもあるようです。また、なかには「子連れは静かにしなくちゃと気後れするから図書館へは行けない」という、かつての図書館のイメージから来館をためらうママパパもいらっしゃるかもしれません。ルールを守りながら親子で楽しみ笑顔で過ごせるスポットとしての告知や、より楽しめる企画・雰囲気づくりを楽しみにしています。

最後に、取材を受け入れてくださった各図書館とご対応くださった司書のみなさん、本当にありがとうございました。なにかのご縁があれば、また図書館巡りに出かけたいです。

(元クルールおかやま編集長 三宅里佳)

高梁市立高梁小学校

本校の子どもたちは、割り当てられた時間に従って、図書室で「読書の時間」をします。新年度の最初の時間は、どの学年もオリエンテーションを行います。プリントやお楽しみクイズで図書館のきまりを確認してから、貸出しをしますが、1年生は、図書室での過ごし方や、本の借り方、返し方など、初めてのことばかりなので伝えることが多くなり、また、字を読むのも個人差があるので、他の学年のようにプリントを使うことができません。その分、オリエンテーションの時間を増やします。初めての読書の時間には、まず、自校の図書館のきまりである「しずかにしよう」「だいにしよう」「かたづけしよう」「本となかよくなるよう」の4つを守るように伝えます。簡単な言葉で、具体例を示しながら、繰り返し伝えます。その後、きまりに気をつけながら、部屋の探検をし、自分で選んだ本を自分の席で読んだりしながら、1時間を過ごします。

2時間目には、実際に借りたい本を選んで、借りる練習をします。このような段階を経て、子どもたちは、段々、図書室での過ごし方、本の借り方、返し方を覚えていきます。

今では、1年生もきまりを守って、上手に図書室を利用できるようになりました。

(高梁市立高梁小学校図書館 佐棟美由紀)



〔オリエンテーションの様子〕

ようこそ図書館へ

岡山県立岡山一宮高等学校

春とはいえ風が冷たい4月ですが、がまんして図書館のドアは開けっ放しにしておきます。

「ここ入ってもいいのかな？」と不安げに覗く

新入生が入館しやすいようにするためです。蔵書管理システムへの新入生の登録も、入学式までには済ませておきます。

本校では例年4月下旬ごろから、現代文の時間を各クラス1コマいただき、新入生図書館オリエンテーションを図書館で実施しています。図書館に入る経験をすることで、敷居がぐんと低くなります。禁止事項（飲食・ケータイスマホ・大きな笑い声を図書館三大悪行と呼んでいます）さえ守れば、自由に楽しく過ごすことができること、貸出返却の方法、本以外のサービス（インターネット・新聞・雑誌・コピー・予約リクエスト・先輩たちの探究学習の記録・卒業アルバム等）について説明し、残った時間で館内を自由に見てもらい、1冊以上借りたら終了です。借りた本を、帰り際に廊下の返却ポストに入れられてしまうと非常に悲しいので、せめて数日は手元に置いておきたいと思える本を選ぶようにと指導します。

授業で図書館を使用する際、最初に利用方法を説明する時間を5分程度いただくこともあり、書籍、インターネット、新聞記事の検索方法や関連図書がある書架の位置を紹介しています。

検索方法やNDCについて詳しく説明する時間がないせいか、上級生になっても、探究学習や受験対策用の本探しに手間取る姿を見かけます。まだまだ工夫が必要だと感じています。

(岡山県立岡山一宮高等学校図書館 加茂清太郎)

『大学図書館』は、学生と教員の学習及び研究活動のための『情報収集』を目的とします。そのため、大学図書館には、設置学部・学科・

岡山商科大学附属図書館

大学院に関する専門分野の図書・雑誌資料・電子資料が蓄積されています。また、貴重で古くて珍しい本なども収集しており、それも『大学図書館の価値』と言えます。

初めて大学図書館に足を踏み入れた学生には、何か難しそうで重苦しい感覚に囚われるかもしれません。それを解きほぐすのが『大学図書館オリエンテーション』です。本学では、4月・5月に新生を中心に、10月に3、4年生及び大学院生に対して実施します。『図書館の配置・図書館の活用術—探す・調べる・知る喜び・学ぶとは—』と題し、図書館員が対象者の希望時間に応じて案内・説明をしています。大学院生にはプラスαの内容も含めます。オリエンテーションは、大学生活の醍醐味である演習ゼミナールの講義時間内に行います。個人希望者にも対応しています。

また本学図書館では、2年前より希望者を中心に『電子ジャーナル・データベース講習会』を開催しています。契約会社に説明・解説をお願いし、学生や教職員が充実した『情報収集検索』の手法を修得できるような機会を設けており、今後、更なる充実を目指しています。

我々図書館員の願いは、学生一人一人が自ら図書館に足を運び、基本となる OPAC で図書資料を検索したり、さまざまな話題について仲間と語り合ってもらうことです。

(岡山商科大学附属図書館 藤岡彰)

初めての利用者へのご案内

井原市井原図書館
～親子でとしょかんはかせになろう！～



[移動図書館車「さくら号」での様子]

井原市井原図書館では、親子に図書館や本に興味を持ってもらい読書意欲を高めようと、3歳～小学生とその保護者を対象に「親子でとしょかんはかせになろう！」を企画し、7月27日(土)に開催しました。

親子は、普段は入ることができない書庫や、移動図書館車「さくら号」の中を、司書の説明を受けながら楽しく見学しました。見学しながら、図書館の使い方やマナーを学び、最後に図書館はかせ認定証を受け取りました。参加者からは、「地下室に書庫があってびっくりしました。」「図書館をよく利用していますが、いつもは入ることができない書庫にたくさんの本があり驚きました。他の図書館も見学したくなりました。」という感想をいただいています。

今後も子どもたちが図書館の利用方法・マナーを楽しく学びながら、図書館や本(読書)に興味・関心が高まるよう行事をさらに充実し、子どもたちの読書活動を推進していきたいと考えています。

(井原市井原図書館 中塚順子)

玉野市立図書館

～えいごで本をたのしもう！～

“Let’s read aloud books in English!”をテーマに、玉野市立図書館では毎月1回、英語での絵本の読み聞かせを中心としたおはなし会を開催しています。

初代“リードアラウドたまの”さん(個人)から、当館のボランティア団体“絵本だいすきたまの”を通じてお声かけがあり、平成29年7月からの開催が実現しました。令和元年8月からは、市内小学校や保育園でも読み聞かせボランティアをされている“TOBY”さんが2代目として担当してくださっています。子どもたちとの英語での掛け合いや歌を交えた楽しいおはなし会で、毎回多くの方に好評いただいています。実際に英語で書かれた本に触れ、また、大きな声に出して読んだり歌ったりすることが特徴で、子どもたちが少しでも英語に親しむことができれば嬉しく思います。併せて図書館では英語絵本に限らず外国語資料の収集に力を入れています。今後、様々な国の言語によるおはなし会を開催していきたいと考えています。

【えいごで本をたのしもう！】日時：原則毎月第3土曜日・10時半～11時、場所：玉野市立図書館内“おはなしのへや”、対象：4歳以上のお子様と保護者の方、事前申し込み不要。

(玉野市立図書館・中央公民館 正子敦司)



【“TOBY”さんによる英語の読み聞かせ】

外国語を楽しむイベントをやっています！

矢掛町立図書館

～えいごであそぼう～

「ハロー！ゲイレン先生」「ハロー！ソラ先生」子どもたちの元気な声が響きます。

ABCDEFGHIJ・・・ABCソングは必ず歌う定番。歌遊びや絵本の読み聞かせ、ゲームやミニ工作など、毎月のプログラムに沿って先生のリードのもと、参加者は異文化に親しみながらコミュニケーションを図ります。参加者は就学前の親子が大半を占め、毎月50名前後の参加があり人気の高い行事となっています。

この行事は、当時、町の英語指導助手として来日していたマリア先生に、子どもたちと一緒に何かできないかという職員の提案から始まった行事で、間もなく20年となります。先生の優しい笑顔と子どもたちの元気いっぱいの笑顔が融合した英語の時間は、毎年次の先生に引き継がれながら今日まで続いています。

「See you again」先生が子どもたち一人ひとりとハイタッチ「Good bye」

【えいごであそぼう】日時：毎月1回土曜日、場所：やかげ文化センター、どなたでも参加できます。

(矢掛町立図書館 妹尾真理子)



【えいごであそぼう～四季～】

岡山大学附属図書館 — 図書館のお宝紹介 (第6回) —

岡山大学附属図書館では江戸時代の藩政資料や地方資料、個人文庫や医学系・農学系の特殊コレクションなど多くの貴重資料を所蔵しています。中でも最も大規模なコレクションが「池田家文庫」です。初代岡山藩主池田光政が寛永9年に鳥取から岡山城に入部して以来、明治4年の廃藩置県に至るまでの約240年の藩政資料及び池田家襲蔵の図書類で、藩政資料約68,000点、和書・漢籍約32,000点からなる大規模なコレクションです。地図・絵図類が豊富であることも特色であり、国絵図・郡絵図・城郭絵図など、約3,000点の絵図類が含まれています。質量ともに優れた大名家文書として知られ、藩政史研究の重要な資料として活用されています。



[貴重資料書庫]

< マイクロ化・デジタル化事業 >

平成2年から2年4カ月をかけて、藩政資料のうち絵図類を除く約65,000点がマイクロフィルム化されました。合わせて、「池田家文庫総目録」に改訂増補が加えられた「改訂増補池田家文庫マイクロ版史料目録」が作成され、これをデータベース化したものを岡山大学附属図書館のホームページから検索することができます。マイクロフィルムは「池田家文庫藩政資料マイクロ版集成」として市販されており、岡山県立記録資料館や国立国会図書館などでも利用することができます。

絵図類についても平成8年度以降、順次、撮影及びデジタルデータの作成を進め、池田家文庫絵図公開データベースシステムとして岡山大学附属図書館ホームページで公開しています。高精細画像は一部非公開のものもありますが、多くの絵図はWeb上で簡単に詳細な画像を閲覧することができます。



[池田家文庫絵図公開データベースシステム]

また、平成31年3月には新たな貴重資料のデジタル公開システム、古文書ギャラリーを正式公開しました。池田家文庫からは国指定重要文化財「信長記」を全文公開しています。

< 教育普及活動 >

岡山大学附属図書館では池田家文庫の資料を活用した教育普及活動にも力を入れています。

平成18年度より岡山大学教育学部と共催で、小中学生を対象に「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を実施しています。江戸時代の後楽園の絵図を見ながら現在と江戸時代の後楽園の違いを学ぶことにより、後楽園という岡山が誇る大名庭園に親しむことを目的にしています。ワークショップに参加する子どもたちの学習はもちろん、子どもたちと一緒に活動する教育学部の大学生の貴重な実習の場ともなっています。



[池田家文庫こども向け岡山後楽園発見WS]

また、平成9年度からは毎年テーマを変えて「池田家文庫絵図展」を開催し、広く地域の皆様に公開しています。平成17年度からは岡山市との文化事業協力協定に基づき、会場を岡山駅前の岡山シティミュージアムに移して、より多くの方にご来場いただけるようになりました。今年も秋に開催を予定しておりますので、ぜひご来場ください。

(岡山大学附属図書館 西村朋子)

令和元年度岡山県図書館協会研修 参加助成事業報告書

研修名：第21回図書館総合展
期 日：11月12日(火)～11月14日(木)
会 場：パシフィコ横浜

フォーラム「読書空間の可能性」

浅野隆夫氏(札幌市図書・情報館館長) 他

日本十進分類法での配架を行わない点は、ライフスタイル分類を取り入れている当館のコンセプトと非常に近い気がするが、図書の館外貸出を行わない点は、「図書館=本を借りに行く場所」というイメージすら変える力があり、これまでのどの図書館とも異なる全く新しいスタイルの図書館だと感じた。浅野館長は、貸出をしないのは常に最新の情報を館内に揃えて大勢の利用者に伝えるためなので、選書がとても重要であると述べられた。

フォーラム「演劇と図書館～図書館人のパフォーマンス&コミュニケーションの力とは～」

今井福司氏(白百合女子大学基礎教育センター) 他

レファレンスや読み聞かせ等の図書館業務において演劇のスキルが役に立つと述べられた。例えば、レファレンスは、職員の知識と利用者のニーズのすりあわせによって正解を探し出す事がある。この時、利用者のアイデアを否定せずに一旦すべて受け入れて、自分のアイデアをさらに付け加えて返す「イエス・アンド」と呼ばれる即興劇のスキルを使えば、よりスムーズな対応が可能である。読み聞かせは、観客である子供の反応を予測することはできないが、優れた役者は観客の反応に応じてアドリブを入れるのと同じで、優れたライブラリアンもアドリブを使いこなす必要があると述べられた。利用者とのコミュニケーションやパフォーマンスのスキルを向上させるのに「演劇」という手法が非常に有効であると理解できた。

(高梁市図書館 大澤一宏)

研修名：第105回全国図書館大会三重大会
期 日：11月21日(木)～11月22日(金)
会 場：三重県総合文化センター

基調報告 小田 光宏氏

(公益社団法人日本図書館協会理事長)

図書館への関心が高まり、観点も広がっている。令和元年6月に「読書バリアフリー法」が公布・施行されたことで、障害者サービスに関する展開が注目されている。

記念講演「忍者研究の最前線から地域と図書館を考える」

吉丸 雄哉氏(三重大学人文学部教授)

三重大学の忍者研究の特徴は文理融合型の研究を行っていること。研究を行う上では図書館のサポートは必要不可欠である。また、研究に利用した資料や研究成果を企画・展示に利用することができる。

第5分科会 専門図書館

テーマ：地域とつながる専門図書館

第11分科会 資料保存

テーマ：和本を知って残そう、使おう～保存と利用と取り扱い～

研修成果

利用者にとって図書館員のサポートは不可欠であり、その役割を果たすためには精度の高いレファレンスと適切な資料の保存と利用・活用が求められる。これは全ての図書館に共通して言えることであり、日々のレファレンスの蓄積と職員間での情報共有が必要である。

第105回全国図書館大会に参加したことで、貴重な経験をすることができた。その中で、各図書館での横の繋がりが大切であるが、組織間で繋がるのは難しいと感じた。まずは個人と個人が繋がることから、よりよい図書館活動へ繋げていきたいと考えている。

(日本レコードマネジメント株式会社

杉山加須美)

**研修名：令和元年度全国公共図書館研究集会
児童・青少年部門**

期 日：11月28日(木)～11月29日(金)

会 場：島根県民会館

松江の雨は縁^{えにしずく}雫とよぶそうです。「心をリセットし素敵なお縁を運んでくれる」そんな思いがこめられています。時折雨の舞う中「子どもとともに読書のよろこびを分かち合おう」と学び語り、まさに縁広がる2日間でした。

報告ではいずれの事例も「声かけ」を大切にしていました。まず声をかけ対話を広げ、信頼を育む中、居場所を生んだり思いを形にしています。光市立図書館は行事の参加者をお客さんのままにしない「まきこみ力」と、他組織との「連携力」、まずやる「実行力」で、民間の産科医院と連携した妊婦さんの絵本教室から始まる、子どもと本の切れ目ない支援を構築していました。

倉吉市立図書館は情報誌『雨のち晴れ』を年4回発行。編集は中高生ボランティアです。YAコーナーでは本の手書き紹介やフリーノートで心の声を表現する場を和やかに設けています。子どもの発信力や交流が育まれると同時に、図書館が安全安心な居場所になっていました。

島根県立大学では読み聞かせを授業化しています。きっかけは小児科病棟で読み聞かせをした学生ボランティアの輝きでした。学内の児童書図書館「おはなしレストランライブラリー」を拠点に、絵本の「つなぐ力」を活かした人気の科目は、お話を聞く子ども達の笑顔だけでなく、学生の多彩な人間力も育んでいました。

講演でストーリーテラー松本なお子氏は、図書館や児童福祉に携わった経験から「図書館に行けるのは一握りの幸せな子」であり、読み聞かせを「してもらえない子にこそ届けたい」と、身近な大人の連携を呼びかけ、自己肯定感や信頼感が育ち、「生き抜く力」につながる読み聞かせの大切さを、優れた絵本と共に伝えました。

開館16年目の鏡野町では図書館の認知度に

ばらつきがあります。ブックスタートで子どもとその保護者は図書館ネイティブ世代といえるものの、「行く用がない」「わしゃええ」との無関心や、「ただなん」「DVDもあるん」と驚かれることもまだあります。来年度から第1次鏡野町子ども読書活動推進計画が始まる中、各館の取り組みを参考に、広報も工夫し、みなさんにまず一歩入ってもらう体験から丁寧に広げたいと思います。

(鏡野町立図書館 中川留美)

県図協セミナー（第2回）に参加して

「SNSを使った情報発信」

期日：令和元年11月27日(水) 参加者：26名

講師：中尾 孝司 氏 (株)ビザコンテンツ開発グループマネージャー

元号が平成から令和にかわるという年の4月に県立図書館への異動となり、広報の担当となりました。広報担当は過去にも経験したことがあったので楽勝かな？と思っていたのですが、その中にツイッターやフェイスブックでの情報発信という今まで未経験のツールを使うという業務があり、4月以降部下に色々聞いたり調べたりと悪戦苦闘しながら秋までやってきました。そんな中での今回の研修で、本音は「もっと早くにやってほしかったー」でした。

研修では、少しばかり期待していたSNSの操作方法はあまりなく、主には効果的な情報発信についてで



[県図協セミナーの様子]

現在は情報過多な時代であることから、最も関心を惹きそうなことだけを簡潔に表現することや、写真によって注意を引き付けることがポイントであるとのことで、普段から気にはしていたものの、実際に講師が例えて示したタウン情報おかやまのページを見せられると、なるほどなあと感じまし

た。巷でよく話題になるインスタ映えな写真と文章があると、まずは写真に目が行く。そしてそこから文章を見ると、たった2〜3行ほどしか情報はなく、残りはホームページのアドレスがあるのみ。文章も数字などが具体的に記載されており、いつも自分が掲載しているSNSとの違いが思い浮かんできました。こうやって、反応の多いSNSを見ることでも、そこから参考にできることがあるんだな、と感じました。今回の研修を受けて、今後様々な施設のSNSを見て参考にさせてもらおう、そしてわが館のSNSに少しずつでも反映させてみようと思います。

(岡山県立図書館 神田尚美)

県図協セミナー（第3回）に参加して

「図書館における資料保存と修理」

【実演】絵本の修理

～壊れた絵本を手でかがり綴じ直す方法～

期日：令和元年12月11日（水）参加者：23名
講師：石川 富男氏（大学製本所）

1級製本技能士としてご活躍されている石川富男氏に、糸かがり綴じという手法での本の修理の仕方を講習していただきました。紙を8P折りにしたものを1台という山にして背中部分に穴を開ける所から始まり、実際に5台分の山を手で直すかがり綴じの方法です。初めての糸かがり綴じに挑戦するも、糸は撚れやすくなかなか思うように進まず、どこの穴に通し、次はどこの穴に通し糸をかけるのかなどと苦戦しな



【県図協セミナーの様子】

がらも、先生の要所要所での丁寧な説明や、ユーモアを交えたポイントやコツを教わり、終始和やかな雰囲気の中、楽しみながら受講することができました。参加者同士も互いに教え合い、各々1冊ずつ仕上げていきました。

ヨーロッパでは、「ルリユール」という職人さ

んがいて、「ルリユール」とは日本語では「もう一度つなげる」「製本」という意味でもあるそうです。

日々の業務において、絵本がクタクタ、糸が切れて今にも壊れてしまいそう…こんな場面に出会います。今回の実習で修理の基礎について学ぶことができました。費用をかけずに自分達でできる修理によって、資料が壊れてもすぐに修理し、なるべく多くの資料が提供できるよう、早速実践し、役立てていきたいと強く思いました。

セミナーを通して、「本を大切にしている人がいる」「物を大切にしている心を失ってはいけない」という事も改めて実感し、本の技術のみならず、大事なことを先生から教わる事ができた、とても有意義で貴重な経験となりました。

(勝央図書館 大美真紀子)

事務局から

■令和元年度企画委員

令和元年11月26日（火）に第2回企画委員会を開催しました。今回



をもって委員の皆様には2年の任期が終了となります。9名の皆様、大変お世話になりました。

■各セミナー、教養講座の資料提供

資料が必要な方は事務局まで御連絡ください。（提供できない場合もございます。）

【訃報】

西野 優子氏（新見市立中央図書館・主任）
令和2年2月6日御永眠 享年44歳
謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

令和2年3月1日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 狩屋 幸司

TEL：086-224-1286